

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400047		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	ファミリーケア本巢		
所在地	本巢市三橋鶴舞98番地		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2193400047-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつまでも、今の状態を維持できるように体操や下肢訓練・歩行訓練等の実施を行っています。その中には、個人に合ったリハビリ体操の実施もあり、集団体操が困難な方にも対応しています。月に1回のユニット会議では個々の利用者の状態把握と情報共有に努め、ケアプランに沿ったケアが出来るように十分な話し合いを行っています。認知症予防のため、手先を使った作品作りや気分転換・四季を肌で感じてもらうために外出支援も出来るだけ行っていこうとしています。地域交流も積極的に取り組もうと今年度より自治会に入会し清掃活動や行事等に参加するように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、医療、介護、看護、認定こども園など、包括的な事業を展開している。各事業の連携により、質の高い利用者サービス提供に取り組み、人材育成、高齢化社会を地域で担う為の中心的役割を果たしている。また、事業所は、地域住民、学生を対象に、福祉に関する出前講座を行っている。利用者は、日々の暮らしの中で、シーツの取り替え、洗濯、掃除など、「何事も自分でできることは自分で」と、自ら行っており、利用者の現在の状態を維持できるよう、職員が支えている。家族の要望・利用者の希望を受け入れ「改善宣言」として実現につなげ、家族とのコミュニケーションを深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理事長の変更に伴い、理念が新しくなりました。毎日、朝礼時に「みんなを笑顔に」と唱和を行い一日の始まりから意識を高めています。最近では地域の方との交流も意識し笑顔の挨拶も心掛けるようにしています。	法人理念「みんなを笑顔に」と、ホーム独自の理念「家庭的な環境・地域住民や家庭との関わり・楽しい生活」を掲げ、職員の目につきやすい玄関と休憩室に掲示し、常に意識するよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より自治会に入会し行事への参加や清掃活動等の介入も行っています。秋には地域交流としてお祭りを開催しファミリーケア本巢を知って頂くきっかけ作りを行いました。その他、中学校の運動会見学や左義長への参加等で交流を深めています。	自治会に加入し、回覧版で地域の行事情報入手し、積極的に参加をしている。昨年、地域住民を招待して開催した秋祭りで、事業所の存在や取り組み内容について、理解を得ることが出来ている。また、福祉体験教室や、小学生を対象に高齢者擬似体験講習会なども実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学校に出向き「高齢者、擬似体験」の講習を行っています。小学生が高齢者への関心を高め事業所に気軽に足を運んでもらえるようになりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内だけでなく地域の実情を得ることで今後の課題を知る事ができています。地域では認知症の高齢者が増え、どう支えていくか等の課題がありました。情報共有をしながら本巢市の福祉資源として活用して頂けたらと思っています。	隔月に開催し、行政、自治会長、民生委員、健寿会、家族、利用者が参加をしている。事業所の目標や実施状況、「認知症の改善がみられる」事例報告などで意見交換をしている。運営推進会議に、小・中・高の学校長の参加を得られることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が毎月訪問して頂いています。事業所の実情やケアサービスについては2か月に1回の運営推進会議にて報告させて頂いています。	困難事例や空き情報など、行政とは日常的に意見交換をし、助言を得ている。行政主催の研修会や連絡会議に出席し、利用者サービスにつなげている。運営推進会議の場でも、介護保険の動向などの説明を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束ゼロの取り組みを行っています。	身体拘束ゼロの取り組みを実践している。研修会の内容を文書にして職員と共有し、日頃のケアを振り返りながら、具体例を挙げて話し合いをしている。利用者の心や行動を束縛することなく、利用者本位に優しく寄り添い、支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回の研修の中で虐待防止について行っています。その他、利用者の事故に関しての報告を重視し原因追究に力を入れています。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については研修で学ぶ機会を設けていますがそれを活用することはできていません。管理者は総合支援事業に関与し毎週行われる認知症予防体操に講師として出向いています。予防介護の方と体操を行い支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に不安や事故の可能性の有無の確認や説明を行い理解・納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、利用者の日常の様子等を伝え意見や要望を聞いています。家族にはアンケート調査を行い、家族の要望をもとに「改善宣言」を作成し、取り組みを強化しています。	職員は、面会に訪れた家族と、出来る限りコミュニケーションを図るよう努めている。家族や利用者の希望を取りまとめ、「改善宣言」として、夕食や他の外出の機会を増やしたり、支援状況を家族に報告し、意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談等にて現在の気持ちや就業に対する不満等を聞く機会を設けています。提案等、前向きな意見を聞く機会を作り反映に努めています。	管理者は、日常の業務の中で、職員の意見や提案を聴き、意見交換を行っており、出来ることから速やかに改善に繋げている。課題内容によっては、月例会議や法人で解決するなど、組織的に取り扱っている。働きやすい職場環境づくりに取り組み、職員定着につなげている。	様々な職員の意見や要望を活かし、より良い利用者サービスに繋げるため、ひとつずつ課題を整理し、全体で取り組んで行く具体策が検討中である。創意工夫を凝らした実践に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望はなるべく叶えられるように配慮をしています。利用者とのふれあいを大切に職員も笑顔で過ごせるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを図る為に、必要に応じた研修を進めています。現在は、少しずつではありますが、喀痰吸引の研修に参加してもらおう事で利用者の受け入れの幅を広げたいと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和光会の中でも他の事業所との連携や情報交換を行えるのが理想です。職員が他の事業所に目を向けいい関係作りが出来る様、努めてまいります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者に関して、不安や困ったことがないように他の利用者以上に声掛けを行い、信頼関係に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者に関して、本人、家族の意向をしっかりと調査しアセスメントを行っています。ケアプランに反映させ家族の理解を得ています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い本人にとって何が必要かを考え、徐々に慣れて頂き、安心した生活が送れるよう努めています。その他、必要な方には歯科・接骨院等の利用も紹介しながら、勧めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや、出来ること等行なって頂きながら集団生活の一員として役割を持って頂いています。その他、一緒にお食事を摂り職員と何気ないコミュニケーションを図る事で関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の状態がわかるよう何かあれば常に電話連絡をとり、面会時には様子を伝えています。提案事や必要物品等も家族の理解を得て進めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者とのふれあいの中から知りえた情報等を職員間で共有しその方にあった支援の仕方をケアプランに反映させるよう努めています。生活歴や生活習慣等の情報を収集しこれまで生きてきた環境を知る事で支援が出来ることを理想としています。	家族や孫、親戚、遠方の知人等が訪問した際には、記念写真を撮り、利用者の部屋に飾っている。いつでも見ることができ、家族にも好評である。同じ建物の小規模多機能型事業所の利用者とも交流し、新たな馴染みの人作りができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりにならないように、フロアにてレクリエーションの提供や体操・コーヒータム等を行い交流の場を作っています。職員は利用者の間に入り場を盛り上げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも必要に応じ相談や悩み事等対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに沿ったサービスの提供に心掛けています。本人様の意向を重視し出来る限りの個別ケアに努めています。早番が業務終了時に1日のサービスが適時行えているかのチェックを行っています。	入居時のアセスメントで、思いや意向を把握しているが、日々の支援からも意外な面を発見することもある。利用者の話をゆとりを持って聴き、希望の暮らし方を支援できるよう、職員間で情報を共有している。困難な場合は、家族の協力を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・生活習慣については本人・家族にその都度伺ってアセスメントに付けたしを行っています。趣味・嗜好に合わせて生活にも反映させ、いきいきとした生活が送れるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって認知症状の浮き沈みがあり、その都度様子を見ながら対応しています。出来ることは行っていただき、残存能力を維持できるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一か月に1回、ユニット会議にてカンファレンス(モニタリング)を行い、評価・検討しています。家族にも要望等をお聞きし計画書に反映しています。	介護記録やユニットミーティング等で検討し、利用者の希望を聞きながら、医師、関係者が参加して介護計画を作成している。家族の希望は、訪問時や電話等で聞き、計画に取り入れている。計画作成後は、利用者の状態変化に応じて見直しをしている。	介護計画作成会議には、できる限り多くの利用者家族が参加できる体制が検討中である。日程等の配慮で、実現できることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを情報共有できるよう申し送りしています。職員間での情報の周知に時間がかかる事がある為、検討しながら進めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下困難な方に対して、法人内の栄養士等と話し、状態把握のため食事状況を観察して指示を仰ぎました。その時はトロミの付け方が統一されていなかったこともあり、指導を受けました。事業所内だけで、解決困難と思われる時は、連携を行っていきます。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域参入に関して、まだ未発達であります。地域のみなさんと交流し地域に介入して行けるように今後も務めてまいります。今年、初めてしめ縄を持って左義長に参加させて頂きました。利用者4人だけでしたが、今後も地域の行事に参加していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に伴う契約時にかかりつけ医の説明を行い納得して頂いた上で選んで頂いています。ほとんどが法人内の山田病院になっていますが、往診が出来ることや連携が取りやすいメリットがあります。	契約時に、かかりつけ医について、継続か協力医か、自由に選択できることを、利用者・家族に説明している。現在、利用者全員が、法人の医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受け、24時間の医療支援体制により、安心して過ごすことができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は24時間の協力体制を整えています。日頃から利用者の体調や経過等を報告をするように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、入院中の様子伺いも積極的に行っています。退院後の状態把握のためのカンファレンスやその後の対応等の相談も密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為に関して、グループホームでの対応が難しい場合や看取りの説明も行き、多職種と連携しながら、できるだけ要望に応えられるようにしています。	重度化や終末期の取り組みについて、事業所の指針を説明し同意を得ている。段階的に利用者の状態を確認し、早い段階で十分に話し合いをしている。常時医療行為が伴わない条件で、終末期の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見えるところに貼り、急変時や事故発生時に対応できるように備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士・自治会の方に協力して頂き、一年に二回避難訓練の実施があります。	消防署立ち会い下、夜間想定を含め、年2回火災訓練を行い、器具の取り扱い、通報、避難誘導などの訓練を実施している。近隣の協力もあり、実施後は運営推進会議で意見交換をしている。母体法人の備蓄に加え、ホームの備蓄品の点検、補強を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を考慮した上で対応の仕方を話合っています。入浴は個浴となるのでプライバシー保護が出来ていると思います。なるべく、自身で出来ることは行って頂き、自尊心を尊重しています。	利用者一人ひとりの意思を尊重し、プライバシーを損ねない対応を行っている。利用者の人格、自尊心を尊重しながら「自分でできることは自分でする」を大切に支援で、利用者の自信につげられるよう、寄り添いながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添い、希望等を聞いています。集団生活の中でできるだけトラブルにならないような働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れが出来ています。過ごし方もさまざまですが、その方のペースに沿って声掛けを行っています。居室で過ごされる方や一日フロアにて穏やかに過ごされる方様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭剃りは毎日、自身にて行っていたいでいます。女性で自立度の高い方は毎日お化粧をしておられる方もいます。外出支援時には特におしゃれに気をつかいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ファミリーケア本巢では、ご飯と汁物のみフロアにて調理しています。匂いを感じていただいたり、味見をしていただいています。その他におやつ作りにて出来ることを行ってもらっています。下膳や食器洗いが出来る方には積極的に関わって頂いています。	食事づくりは、ご飯と汁物のみ、ホーム内で調理している。給食委員会で利用者の好みを聞きながら、献立に反映させている。利用者の希望を受け、食材を用意し、鍋料理を楽しむなど、季節感を盛り込んだ食事も楽しんでいる。手作り弁当で、外出する計画もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や褥瘡の有無等にて栄養状態が気になる利用者の方がみえます。そんな時は法人内の栄養士や訪問看護師に相談しながら進めています。健康に考慮した支援に心掛けます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。自力でケアが出来の方は任せてしまっていますが、ケアが必要な方に関しては介入しています。その他に、希望される方に往診にて歯科にかかることもでき、専門家による口腔内の観察も出来ています。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯は本人の負担も考えてパット交換の方もみえますが、日中は、出来る限りトイレでの排泄を進めています。立位が困難な方も手すりに掴まっていたいただきオムツゼロを目指しています。	トイレでの排泄を基本にしており、自立に向けて支援している。利用者も自然に身につけ、日常化している。夜間も、トイレでの排泄ができる利用者も多い。安全面に配慮して、夜間のみ、ポータブルトイレ利用の人もあるが、利用者の状態に合ったパッドを選択し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘者に関して、医療と連携しながら早めの対応を心掛けています。水分摂取や体操の声掛けにて便秘の解消も行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回の入浴があります。一般浴・椅子浴共に個室となり、利用者のこだわりが見られるはその方の入り方に沿って進めています。	入浴は週2回を基本としているが、柔軟に対応している。利用者から「入浴の時間、順番を明記してほしい」の希望があり、目につきやすい場所に掲示したり、居室に貼るなどしている。重度の利用者は、安全な機械浴で、気分転換を図りながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間は必要に応じて対応していますが、強要はせず、希望に沿って行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用についての話や服薬困難な方の対応等は他職種(医師・看護師・薬剤師)と相談を行い連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・畑仕事・家事等、日常生活に関する役割にやりがいを持っておられる方に積極的に介入して頂いています。その他、買い物・喫茶店等の外出を楽しみにしている方に出来るだけ外出支援を進めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく外に出て気分転換して頂けるよう散歩も進めています。近隣の喫茶店やスーパー等にも足を運んでいます。その他に家族との話合い・協力にて外出・外食を進めています。	天気の良い日は、外出することが事業所の日常的な取り組みであり、近くの公園でゆったり散歩を楽しんでいる。自販機での買い物も利用者の楽しみであり、公園でお茶をしたり、保育園の園児と交流するなどしている。年間行事では、季節の花見に出かけている。	

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理に関してはすべて職員で行っています。買い物支援時にはどれくらいの物がどれくらい買うことができるかを一緒に考え支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望時や家族からの電話等、対応するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースは広く、ゆったりとした雰囲気の中で生活できています。季節感を感じられるような作品の展示や家庭的な雰囲気を味わえるよう工夫をしています。	共同の空間は広く、ゆったり寛ぐことができ、生活感が変化すること無く過ごすことができる。エレベーターは、ベッドが入る広さがある。手作り作品や思い出の行事写真を飾り、感染症予防の為、加湿器を設置して、利用者が気持ちよく、思い思いに好きな場所で過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自席の他にソファが置いてあり自由にくつろげるようにしてあります。その他には席の工夫を行い、気の合う方や合わない方の配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒・ベッド以外は家から持ってきていただいています。利用者によってさまざまです。	居室には洗面台とベッド、整理タンスが置かれ、広く安全に利用できる。使い慣れた家具を持ち込み、思い出の写真、小物、季節の花、趣味の折り紙などを飾り、安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで段差もなくわかりやすく大き目の表札にしてあります。トイレは4ヶ所ありその方にあった使いやすい場所を決める事で場所の把握ができています。		